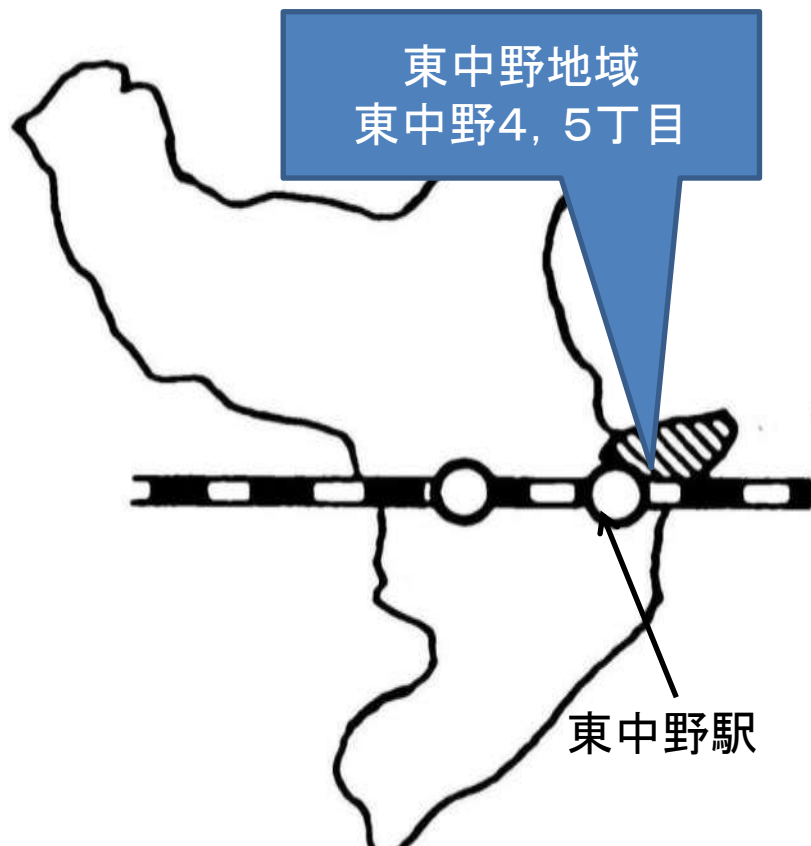


小滝町会
瀧山集会室

東中野五丁目小滝町会

東中野五丁目ってどんなまち？



東中野5丁目小滝町会は中野区の東の端に位置し、新宿区と隣接しています。世帯数は約2,500の中野区の町会自治会のなかでは、比較的規模の大きい町会です。都心に近い交通の至便な土地のためでしょうか、最近は大型マンションの建設が続き、人口はここ数年で大きく増加しています。住民の年齢構成は30歳代までの若年層は、中野区の平均より多く、高齢者層は比較的少なくなっています。

地域の変化

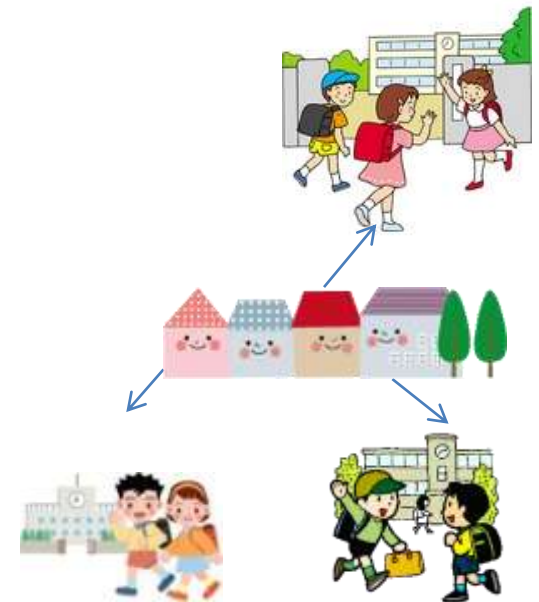
- 50代前後の住民層の減少

(20代～30代の若い世代は住み始めても長く住み続ける人はまれである)



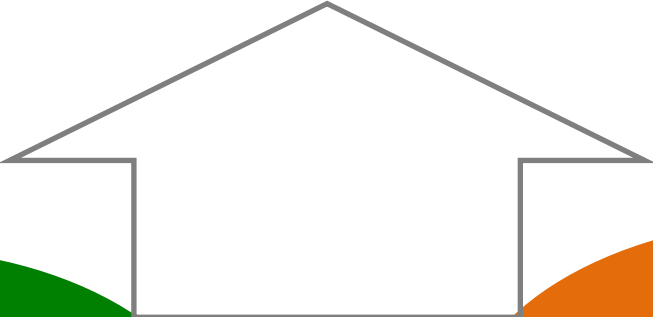
- 地域と学校の一体感が薄れた

(小学校の統廃合により、地域の子どもたちがいくつもの学校に分かれて通うようになり、学校生活を通じて親同士の連絡や連携をつくることが困難になった。)



東中野五丁目地域の課題

町会活動の中心的な担い手が減少し
新しい担い手も生まれにくい。
人と人とのつながりが、
薄く、連携をとることが困難



かつてはバランスよく
様々な世代が住んで
いて、顔見知りばかり
だった。

かつては学校があっ
て親と子どもの顔もよ
くわかり、町会とのつ
ながりもすぐつくれた。

これらの課題に対して、まず考えたこと

多くの方が参加しやすい イベント を行

う



新しく住み始める若い世代が多いということは、町に対して新鮮な好奇心をもっている人が多いということでもあります。町会活動の目的は住民同士の親睦です。ということは、お互いを知って仲良く暮らすということです。



地元企業



グループ
ホーム



専門学校



地元NPO
法人



幼稚園

ひがしのフレンズ構想



中学校



保育園



JR 東中野駅



特養
ホーム

私は区民活動センターの運営に関わるようになってから、自分の町内のことだけではなく、東中野地域全域の交流と親睦についても意識するようになりました。そして新住民だけでなく、今まであまり町会とは活発な交流のなかった、企業などの事業者や、幼稚園や保育園、高齢者施設などと町会とのあいだに様々な接点を生み出せるような活動を積極的に企画することを考えるようになりました。



活動の対象や目的によって、活動主体を町会以外のチャンネルに変えることもします。たとえばこのまち歩き“ひがしのぶらぶら歩き”は新住民を対象に区民活動センターの事業として行いました。

新築されたばかりの大型マンションにチラシを集中的に配布したところ、配布直後から申込みの反応があり盛況でした。



町の商店にも協力してもらって試食をしているところです。



町会の方が神社の説明をしています。

住みなれている私たちからみるとなんでもないことでも、新しく越してきた人たちには大変新鮮に映るようで好評でした。



子どもたちを対象にした事業は町会主催で行うこともあれば、地域の放課後子ども教室事業をしている団体と共同でも行います。
これは町内の日本料理店の店主の方の指導で和食をつくっているところです。



親子対象の料理教室は大変人気で、このほかにも町内の豆腐屋さんの指導する豆腐作りやレストランのシェフの指導するイタリア料理なども行います。





これは鯉のぼりまつりというイベントで、閉校になった小学校の校庭に鯉のぼりをたくさん泳がせよう！という内容です。



イベントのキャラクターも考えました。



2008年から8回連続して行いましたが、毎回1000人以上の来場者がありました。

これは区民活動センターの事業でクリーンウォークと名付けていますが、見知らぬ人どうしで、ゴミを拾いながら、まちを歩くという事業です。



集合から解散まで1時間で終わる事業ですが、ゴミを拾っていくとなぜかいろいろ話すようになります。



ゴミ拾いのやり方についてはあるNPO法人に教えてもらいました。
このように事業の主催者は単なるサービスの提供者にならないように、参加者を
うまく巻き込んで共同でつくりあげることが工夫すると思います。



[illegible]

このように町会活動を盛んにしてきたことで、幸いにして、いくつかの良い兆しが見えてきています。さまざまな事業の背後には町会の存在があるということが知られるようになってきました。事業に初めて参加する人もはつきり増えてきました。

東京ホームタウンプロジェクトの支援内容（2016年度）： マーケティング基礎調査



（プロボノチームと）

目的： 町会活動の参加者・担い手を増やす

支援内容：

地域の中でのつながりを深め広げていくために、町会のコアメンバーだけでなく、古くからの住民、新住民、町会活動への参加経験者、そして、未経験者まで、幅広い地域住民が、この活気と若さのある町会に何を期待し、どのようにして関わるができるのかを調査しました。

未来の町会は・・・？



先日ある役員の方から「これからは出会いを楽しみましょう」と言われました。新しい出会いを楽しみ、活動を通して理解と共感をじわじわと広げていく、そんな町の仲間づくりができたらと願っています。